令和５年度　第１学期始業式　式辞

令和５．４．10

在校生の皆さん、一つ学年が進級し、令和５年度を迎えました。満開の桜をはじめ、城山や校内の草木にも多くの花が咲いた後には、鮮やかな色の若葉が映えて、次の世代へと時間や季節の変化を実感します。

３月の終業式でＷＢＣに出場していたダルビッシュ有選手のコメントを紹介しましたが、進路実現に向かう３年生やコース選択をして進路目標をさらに具体的に準備する２年生にとっても、新しい学年としていいスタートができるために、準備は既にできたはずですので、今日から一つ成長した姿を行動で応えてくれると信じています。

先ほど新任式で紹介したコラムには続きがあります。桜が咲く頃、私たちは、様々な環境で別れと出会いを経験する。出会いは神秘的だが、花が散るように儚いものでもある。出会いや別れに直面するとき、私たちは不安を感じるが、それは新たな自分と向き合える成長と発展の機会でもある。自らの軌跡が未来へつながるように、これからも新しい人生の道を切り拓いていきたいと、版画家、画家である山田彩加さんは書かれています。

松山北高校の学校生活において、新しい学年やクラスなど、大きな環境の変化がありますが、新たな仲間や担当していただく各先生方との出会いに加えて、松山北高校という全ての空間自体が、皆さん自身をさらに成長させる素晴らしい環境になりえるものです。環境の変化が皆さんにとって、自らを見つめなおし、成長するためのいい機会だと前向きな気持ちで今年度のスタートを切ってほしいと願っています。

前向きに、また主体的な気持ちで多くのことに臨むための考え方を、皆さんがよく知っている最近の事例で改めて紹介します。

もう一度、ＷＢＣの話に戻します。終業式の後、記憶にまだまだ鮮明に残っていると思いますが、日本代表の「侍ジャパン」が激戦の末、逆転で準決勝に勝利し、決勝戦の相手チームで、スター軍団であるアメリカとの試合開始前に、ロッカールームで日本チームが士気を高めるために行なった声出しで、大会後話題となった大谷翔平選手が語った内容です。「憧れるのは、やめましょう」と断言し、「今日１日だけは、やっぱり憧れてしまったら超えられない。僕らは今日、超えるために、トップになるために来たので、今日１日だけは彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけを考えていきましょう」とチームを鼓舞しました。このメジャー屈指のプレーヤーからかけられた言葉に、侍ジャパンのメンバーが意識を新たにしたという話は、皆さんもよく知っていると思います。

実はこの話の真意について、試合後のハイライト番組に、ゲストとして登場した大谷選手が、「今日の試合前、チームに向けて『メジャーリーガーを恐れるな』という趣旨のことを言ったスピーチはどういう意味があったんだ？」と問われたところ、大谷選手は、「野球をやっていれば、誰もが聞いたことがある選手が、ベンチを含めて並んでいる。そうすると、どうしてもリスペクトの形が受け身になってしまう。負けないんだという気持ちで行きたい」と思う気持ちから発した言葉だったと答えたそうです。さらに加えて、「本当に私たち日本人は、アメリカの野球をリスペクトしています。彼らの野球っていうものを見本にしてこれまで頑張ってきた。今日はたまたま勝ちましたけど、もっと高みを目指していきたい」と相手チームであり、現在もプレーしているアメリカへの敬意も語ったそうです。

大谷選手の言葉から、相手をリスペクトする気持ちや謙虚な姿勢が伝わると同時に、何事も受け身になってはいけない、周りの雰囲気に飲まれてはいけないなど、自らの判断で主体的に行動する大切さを学ぶことができます。皆さんの日常で言えば、大きな大会や日ごろから経験できない雰囲気の空間で、自分を失ってはいけない「平常心」の大切さも学ぶことができます。

そして、ことある度に、本校の校訓「文・武・心」の三道三立を実現しましょうと話していますが、皆さんには、どれか一つという中途半端な取組ではなく、全てにおいてバランスよく実践してもらいたいと願っています。

特に「心」については、終業式でもお願いしましたが、日ごろから主体的に挨拶ができる景色がこれまで以上に多く見ることができるよう期待しています。挨拶の意味は、お互いに心を開いて相手の心に近づいていくという意味です。何よりも気持ちよく挨拶された側が、清々しい気持ちになり、皆さん自身も気持ちよく過ごせるという単純なことです。このような行動の積み重ねの実践が「心躍る学び合い」につながる近道だと考えています。また、社会貢献できる人材に成長するためにも、校訓「文・武・心」を実現し、人間力も高めて、皆さん自身の目標であるそれぞれの「一朶の雲」を掴んでほしいと願っています。

最後に、皆さんには、先日の愛媛新聞にも掲載されましたが、書道部が石手寺や太山寺で平和への祈りを込めて揮毫した「和を以て貴しとなす」という意味の理解を深め、仲間とともに共生や協働することを実践し、松山北高校生としての自覚した立ち居振る舞いによって称賛される行動で、今年も本校123年目の歴史を皆さん自身で輝かしいものにしてもらいたいと期待して、式辞とします。